

I. 神奈川県内 d. イベント記録堆積物

(6) 液状化による噴砂脈 露頭剥ぎ取り標本 (鎌倉遺跡トレンチ)

標本番号 KPM-NP 53

標本名 液状化による噴砂脈 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 1.3 (下) ~ 1.65 (上) m, 高さ 2.1 m

重量 28.0 kg

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状、短辺を軸に巻いて
大型移動棚に収蔵。

採集地 鎌倉市由比ヶ浜三丁目

緯度・経度 N35°18'46", E139°32'32"

標高 8.7 m 地点

露頭の種別と現状 遺跡調査に伴う人工露頭、埋め戻し消失

露頭面の向き、傾斜 南西向き、ほぼ垂直

走向・傾斜 不明

堆積物の種別 旧表土

年代 8 ~ 13 世紀 (上本ほか, 1993)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 松島義章

採集日 1991 年 2 月 4 日

関連文献等

上本進二・大河内 勉・寒川 旭・山崎晴雄・佃 栄吉・松島義章 (1993) 鎌倉市長谷小路周辺遺跡の液状化跡. 第四紀研究, 32(1): 41-45.

解説 鎌倉の長谷小路周辺遺跡の 14 世紀後半に構築された方形竪穴建築址 3 の東壁に現れた液状化による噴砂跡である。発掘時の遺構では漏斗状になった

噴砂の断面が明瞭にわかるものであったが、本剥ぎ取り標本では噴砂による堆積物の境界が不明瞭である。なお本標本は、垂直断面と上部の水平面を連続して剥ぎ取ったものであり、上部は水平面の剥ぎ取りと考えられる。

上本ほか (1993) はこの噴砂の形態的特徴・噴出時期を検討し、本噴砂を発生させた地震は 1257 年もしくは 1293 年と限定した。噴砂を特定の時期に限定した貴重な事例である。

記録者 田口公則



図 1d-6-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

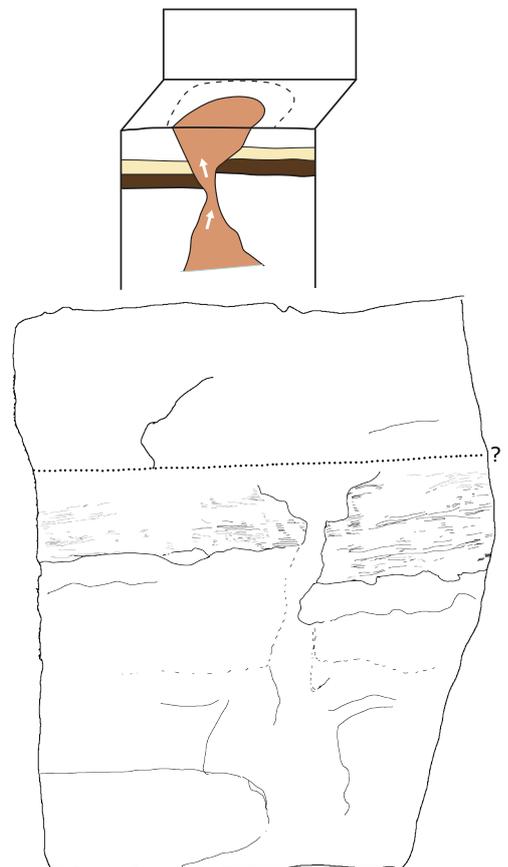


図 1d-6-2. 剥ぎ取り標本の写真 (左) とスケッチ (右下: 田口原図), 剥ぎ取り場所の概念図 (右上, 松島原図を元に田口作成)。